

もっと詳しく知りたい方へ・・・

女性教育情報センターは、国立女性教育会館内にある、  
男女共同参画および女性・家庭・家族に関する専門図書館です。

●文献情報データベース(所蔵検索)

[http://winet.nwec.jp/bunken/opac\\_search/](http://winet.nwec.jp/bunken/opac_search/)



女性教育情報センターHP

【検索キーワード】

スポーツ、体育、運動、体力、スポーツ選手、アスリート など

図書の貸出、新聞記事の複写郵送サービスなどを行  
っています。ぜひご利用ください！

ボランティア女性教育情報センターだより 91号 2020年3月発行  
特集「スポーツとジェンダー」

<http://id.nii.ac.jp/1243/00018881>



女性とスポーツ  
～ジェンダー平等への道のり～  
女性教育情報センターテーマ展示

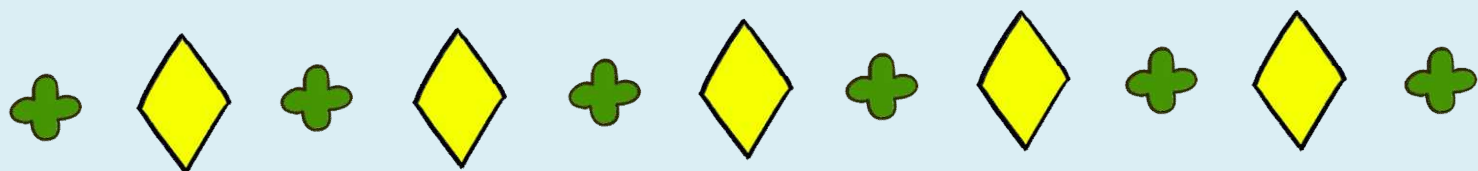


(URL) <https://www.nwec.jp/event/center/sport.html>

✚ 編集・発行: 独立行政法人国立女性教育会館 情報課  
〒355-0292  
埼玉県比企郡嵐山町菅谷728番地  
TEL:0493-62-6195  
URL:<https://www.nwec.jp/facility/center.html>

✚ 発行: 2021年4月



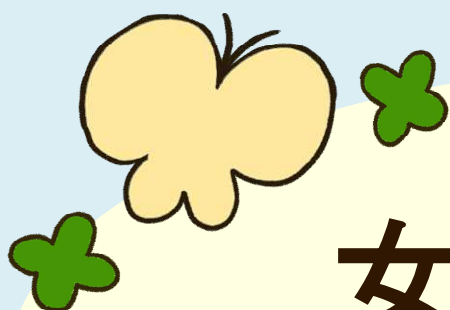


ます

# 本、あり□。

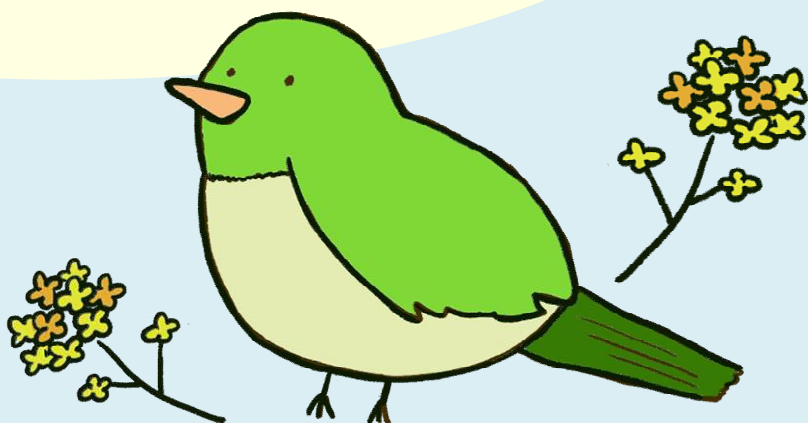
-?を!に変える本との出会いを見つけるマガジン-

///Vol.23///



## 女性とスポーツ

~ジェンダー平等への道のり~



オリンピック競技大会(以下「オリンピック」)を中心に、女性とスポーツの歴史をみてみよう



## 女性とスポーツの歴史

1896年 第1回 オリンピック開催(ギリシャ・アテネ)  
女性選手の参加は認められていなかった

1900年 第2回 オリンピック開催(フランス・パリ)  
女性選手が初めて大会に参加できるようになった

＜女子種目の追加の流れ＞

1900年(パリ大会)テニス、ゴルフ

1904年(セントルイス大会)アーチェリー

1908年(ロンドン大会)フィギュアスケート

1912年(ストックホルム大会)水泳

長い間男性のみで構成されていた国際オリンピック委員会によって、「女性らしい」とみなされた競技が女子種目として認められていったよ



1928年 人見絹枝が日本女子選手として初めてオリンピックに出場  
第9回オリンピック(アムステルダム) 800m走で銀メダルを獲得

1968年 第19回オリンピック(メキシコシティ)  
女性にのみ性別検査が実施された。  
(人権侵害にあたり抗議を受け、1999年に中止)

1981年 国際オリンピック委員会に初の女性委員が誕生  
(委員会創立87年目)

1994年 女性とスポーツに関する初の国際会議  
「第1回世界女性スポーツ会議」開催(英国・ブライトン)  
政府機関、各国のオリンピック委員会やスポーツ連盟等が参加  
国際女性スポーツワーキンググループ(IWG)設立  
スポーツのあらゆる分野での女性の参加を求めた「ブライトン宣言」採択(日本は2001年に署名)

2006年 日本 第4回IWG会合を熊本市に招致



女性アスリートには、無月経、摂食障害、貧血など、女性特有の健康問題があるよ



### 『女性アスリートの健康管理・指導Q&A』 能瀬さやか編 日本医事新報社 2020

健康管理の基礎知識、メンタルの問題、妊娠・産後に関する問題、引退後のヘルスケアなど、医学的問題に関する情報がまとめられています。Q&A形式で掲載されているので、気になる項目から分かりやすく情報を得ることができます。



### 『Health Management for Female Athletes : 女性アスリートのための月経対策ハンドブック 第3版』 東京大学医学部附属病院女性診療科・産科 2018

月経に関する基礎知識・対策法、選手のコンディションに影響を与える女性特有の問題など、知っておくべき知識がまとめられています。婦人科受診のためのチェックリストも付いており、健康について客観的に振り返るきっかけにもなる一冊です。

下記URL(東大病院)から閲覧することができます。

<https://www.h.u-tokyo.ac.jp/patient/depts/jyoseisanka/athlete/>

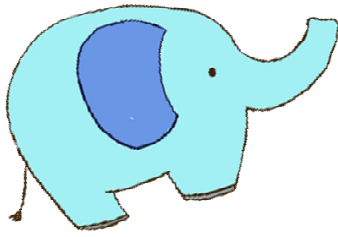
### Web上で見られる資料

女性アスリート健康支援委員会「啓発資料」  
<http://f-athletes.jp/download/index.html>



#### ◆ 資料例

- 「カラダテキストブック スポーツ女子をささえる人に知ってほしいこと」
- 「アスリートと貧血 医師が教えるアスリートの健康情報」
- 「女性アスリートの今と未来をまもる 月経とスポーツについての健康情報」
- 「女性アスリートのための月経セルフチェックシート」



誰もがスポーツを楽しめるようにするために、安心してスポーツができる環境づくりが大切だよ。

### スポーツ基本法 前文(抜粋)

スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利



### 『日本のスポーツ界は暴力を克服できるか』 森川貞夫編；森川貞夫 [ほか著] かもがわ出版 2013

本書は2013年、スポーツと暴力をめぐる問題が社会問題として大きく取り上げられた年に発行されました。スポーツ界に根強く残る暴力の問題点と課題、暴力の克服を目指して指導者や教員、弁護士らが行った取り組み、トップアスリートを育てる指導などについて書かれています。



### 『体育・スポーツにおける多様な性のあり方ガイドライン：性的指向・性自認 (SOGI) に関する理解を深めるために』 日本スポーツ協会 2020

性の多様性の理解を深めるための啓発ハンドブックです。性的指向や性自認について多様な性への権利が保障されていないために、スポーツを楽しめない人や、差別を受けたことがある人がいるという現状がある中、スポーツに関わる人は必読です。下記URL(日本スポーツ協会)から冊子をダウンロードできます。  
<https://www.japan-sports.or.jp/publish/tabid776.html#guide13>

### Web上で見られる資料

プライドハウス東京「ハンドブックダウンロード」  
<https://pridehouse.jp/handbook/>

#### ◆ 資料例

「SPORTS for EVERY ONE : スポーツフォー エブリワン」  
誰も排除しないスポーツ環境づくりのためのハンドブック



- 2012年 第30回 オリンピック開催(ロンドン)  
全競技に女性が参加できるようになった  
全参加国・地域から女性選手が参加した記念すべき大会
- 2014年 オリンピック憲章に性的指向による差別の撤廃が明記  
IOCが「オリンピック アジェンダ 2020」を決議  
提言11: 男女平等を推進する  
「第6回世界女性スポーツ会議」開催(フィンランド・ヘルシンキ)  
ブライton宣言が見直され、女性スポーツ発展のための国際的な戦略「ブライton・プラス・ヘルシンキ宣言」採択
- 2017年 日本が「ブライton・プラス・ヘルシンキ2014宣言」に署名  
(スポーツ庁など5団体)
- 2021年 東京オリンピック・パラリンピック競技大会  
男女混合種目が新たに採用  
女性の参加率が過去最高となる見込み  
レガシー(遺産)\* の一つとして、スポーツ団体の女性役員の登用  
やダイバーシティ推進等の取組が進むことが期待されている
- \*オリンピックの「レガシー」とは、「有益性の高い影響全般」のこと  
(参考)三省堂「WORD-WISE WEB」続 10分でわかるカタカナ語 第27回 レガシー

(参考)内閣府男女共同参画局「男女共同参画白書 平成30年版」特集 スポーツにおける女性の活躍と男女の健康支援(2018) [https://www.gender.go.jp/about\\_danjo/whitepaper/h30/zentai/index.html](https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/h30/zentai/index.html)  
スポーツ庁「女性スポーツに関する国際的な取組」  
[https://www.mext.go.jp/sports/b\\_menu/sports/mcatetop11/list/1387282.htm](https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop11/list/1387282.htm)  
東京都人権啓発センター「特集 人権とスポーツ2020」『TOKYO人権』vol.71, p.6-7, 2016

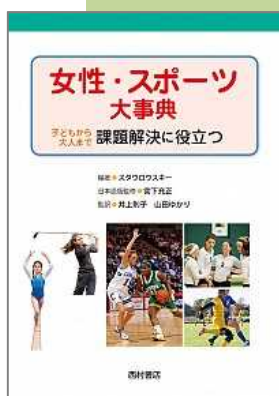
## もっと知りたい方へ

### 『女性・スポーツ大事典：子どもから大人まで課題解決に役立つ』

スタウロウスキー編著；宮下充正日本語版監修；

井上則子、山田ゆかり監訳

西村書店 2019



女性とスポーツの歴史、健康問題、セクシュアリティ、障がい者スポーツ、スポーツ産業界の女性たちなど、女性とスポーツに関するあらゆる課題が取り上げられています。

## スポーツにチャレンジした女性たち



今では男女を問わず多くの方がスポーツを楽しんでいますが、歴史を振り返ると女性がスポーツをすることを認められていない時代もありました。

### 『歴史を変えた50人の女性アスリートたち』

レイチェル・イグノトフスキー著；野中モモ訳 創元社 2019



スポーツにおける女性差別や女性への偏見が強い時代から、道を切り拓いてきた女性アスリートたちが取り上げられています。印象的なイラストと共に、生き立ちや経歴に加えて、私生活でのエピソードも書かれており、親しみやすい一冊です。

### 『人見絹枝：日本人初の女性オリンピック選手』

大野益弘文；しちみ楼絵 小峰書店 2019



1928年日本人女性として初めてオリンピックに出場し、800m走で銀メダルを獲得した人見絹枝の伝記です。

「女性が足を出して走るなんてもってのほかだ」と考えられていた時代に大きな影響を与え、24歳の若さで生涯を閉じるまでが書かれています。

### 『女の子だって、野球はできる! : 「好き」を続ける女性たち』

長谷川 晶一著 ポプラ社 2018



現在でも、野球は男性のスポーツというイメージは根強く、女性が野球を続けることは、男性と比べて環境が十分に整っていないなどの壁があります。

厳しい環境の中でも野球が好きという思いを持ち続け、女子野球の道を切り開いてきた選手たちが紹介されています。

# スポーツとジェンダーについて知る



『よくわかるスポーツとジェンダー  
(やわらかアカデミズム・「わかる」シリーズ)』  
飯田貴子, 熊安貴美江, 来田享子編著 ミネルヴァ書房 2018

スポーツとジェンダーについて、歴史、教育、政策、倫理、イベントなど、様々なテーマから現状や課題、その背景をわかりやすく解説している入門書です。

各テーマごとにおすすめ文献も多数紹介されており、幅広く知識を深めることができる一冊です。

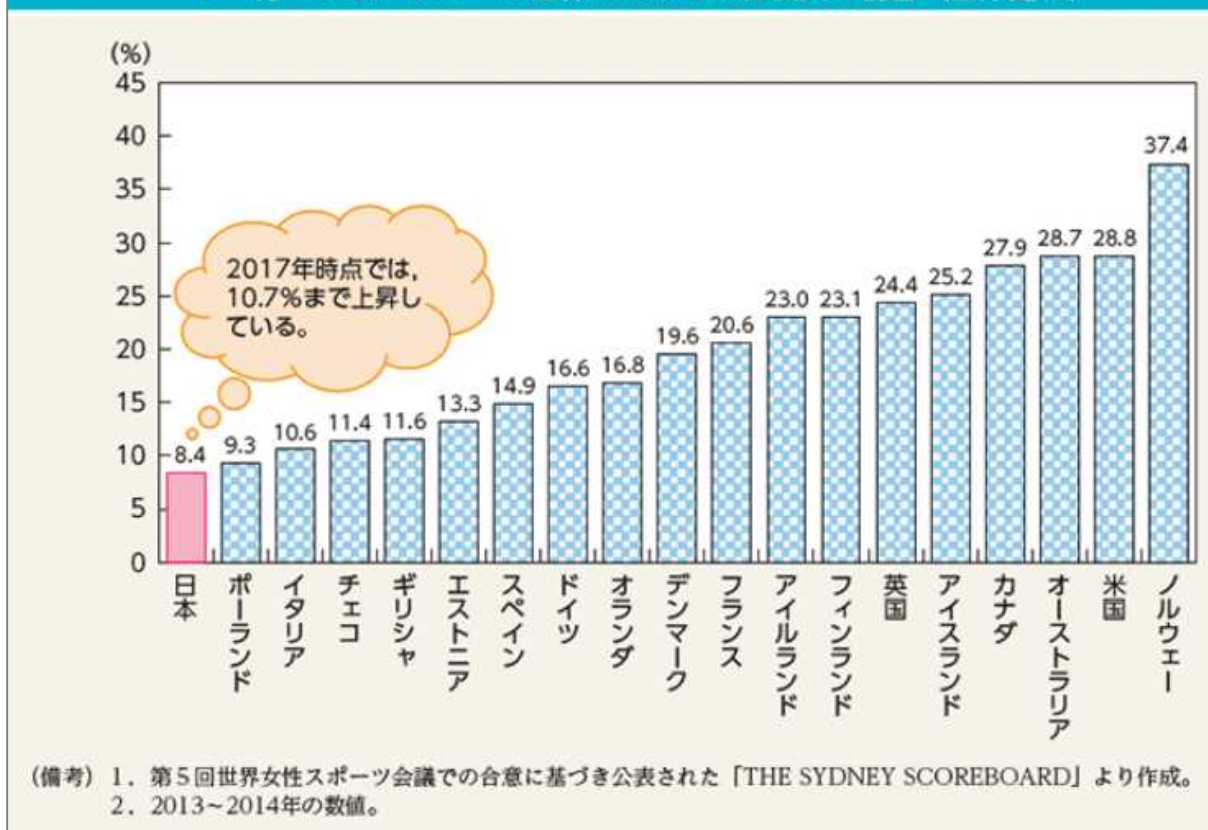


『データでみるスポーツとジェンダー』  
日本スポーツとジェンダー学会編 八千代出版 2016

競技スポーツ、生涯スポーツ、研究、暴力、メディアなど様々なデータが掲載されており、スポーツにおける男女差やセクシュアリティの課題を知ることができるデータブックです。

1900年以降の年表もあり、歴史的背景から現状まで知ることができます。

I-特-23図 スポーツ団体における女性役員の割合 (国際比較)



(引用)内閣府男女共同参画局「男女共同参画白書 平成30年版」



スポーツ団体における指導的立場の女性の割合はまだまだ低いのが現状だよ。